

2011 年度ヤングサイコロジストプログラム (YPP2011)

❖ 企画趣旨

YPP は、若手研究者たちの交流を目的とし、通常の研究会よりもフランクに「参加者全員が遠慮なく意見を出し合い研究について考える」場です。今回は“「よい研究」を求めて若手研究者が議論する！”と題しまして、まず参加者全員で自由にディスカッションをしてもらう企画を設けました。普段「研究」というものについて考えていることを発言したり、研究領域の異なる方の意見を聞いたりすることで、「よい研究」についての見解を深め、研究に少しでも活かしていただければと思います。もちろん例年通り、個人の研究発表もございますので、こちらでも多様で活発な意見交換を皆様と行いたいと思います。

❖ 日時/場所

2011 年 9 月 1 日 (木) 15 時～18 時

ハートピア京都 3F 視聴覚室 (<http://www.heartpiakyo.jp/room/index.html>)

※参加費は無料です。(ご当地のお土産の持ち込み、大歓迎です！)

❖ タイムスケジュール

自己紹介の際には、みなさまより氏名・所属・研究テーマ・何か一言をお願いします。

15:00	開会、参加者自己紹介
15:30	企画 ①グループディスカッション
16:00	②全体ディスカッション
16:45	休憩
17:00	研究発表 1 加藤 仁さん
17:30	研究発表 2 徳吉 陽河さん
18:00	閉会
19:00	懇親会

❖ 懇親会

研究会終了後、会場近くのお店を準備しています。ぜひご参加ください。

遊句 きん安 <http://www.hotpepper.jp/strJ000788766/> (費用は別途徴収いたします)

❖ 企画 「よい研究」を求めて若手研究者が議論する！

「よい研究」がどのようなものであるのかは、比較的研究歴の浅い若手研究者にとっての悩みであり、また、「よい研究」について柔軟に考えることができるのは若手研究者の特権ともいえるのではないのでしょうか。今回は「面白さ・意義・学際性」の3つのキーワードに焦点を当て、グループディスカッション・全体ディスカッションを通して、その答えやヒントを見つけていただければと思います。

ディスカッション企画の流れ

- ①企画の説明（10分）
 - ②小グループに分かれて各キーワードについてディスカッション（20分）
 - ・意見をカードにまとめていく
 - ③全体でのディスカッション（45分）
 - ・グループでのディスカッション内容を発表
 - ・各キーワードからの要点を整理
- ※当日は筆記具をご持参ください。カードはこちらで用意いたします。

❖ **研究発表**（発表 15 分程度＋質疑応答 10 分程度）

加藤 仁さん 「自己愛傾向がソーシャルサポートの知覚に及ぼす影響」

◆発表内容

自己愛傾向の高い者が適切に周囲のサポートを得るためには、周囲にソーシャルサポートが存在することが重要である。同時に、それを利用可能であると本人自身が認識している必要もあると考えられる。本研究では、自己愛傾向がソーシャルサポートの利用可能性の認知を予測する程度と、自我脅威状態におけるソーシャルサポートの利用可能性認知の変動性に自己愛傾向が与える影響について検討する予定である。

徳吉 陽河さん 「コーチング心理学メソッド開発の試み」

◆発表内容

徳吉（2010）は、コーチング心理学における「認知行動コーチングの理論」を元にして、コーチング・セッション実施するための手順書（マニュアル）である「目標の自由回答式質問票」を作成した。本研究では、認知行動コーチングを元にした手順書により、実験参加者を「半構造化面接」、「セルフ・コーチング（自己で記入するのみ）」、「統制群（なにもしない）」の3群に分類した上で、認知と行動に対する影響を検討した。

❖ **企画**

長谷川由加子（上智大学）・西浦真喜子（大阪大学）・榊原良太（東京大学）

❖ **主催**

日本パーソナリティ心理学会広報委員会（担当：浅野良輔・落合萌子・竹内一真）

+++++

YPP2011 の開催に際して、日本感情心理学会第 19 回・日本パーソナリティ心理学会第 20 回合同大会準備委員会より、多大なご支援・ご協力を賜りました。ここに深く感謝申し上げます。

+++++